

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2008～2009年度 国際ロータリー 李 東建（リー・ドンカン）会長テーマ

Make Dreams Real 夢をかたちに

創立 1954年3月8日  
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30～13:30  
例会場 刈谷市新栄町3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566)22-2111  
FAX (0566)25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 塚本 幸夫  
幹事 廣根 実  
会報委員長 今村 順

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第2609回例会プログラム

[当年度=10回目；当月=5週目]

2008年（平成20年）9月29日(月)

## 1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム  
12:30 2. 点鐘……〈会長〉  
3. 開会宣言  
4. ロータリーソング斉唱  
……手に手つないで  
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介  
6. 食事  
12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告  
8. 幹事報告  
9. 出席報告  
10. 委員会報告  
11. ニコニコボックス報告  
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(10/6) ……クラブ協議会  
ガバナー補佐訪問  
(10/13) ……休会（法定休日）

## 2. クラブフォーラム……〈新世代委員会〉

- 13:00 卓話「新世代活動の理念と現実」  
講師 地区新世代委員会  
委員長 とおやま たかお 遠山 堯郎 様（名古屋瑞穂RC）  
委員 まつさか りょうた 松坂 良太 様（豊橋RC）  
（紹介者 嶋津 孝久 会員）

13. 謝辞  
14. 点鐘………〈会長〉  
15. 閉会宣言  
13:30 16. 散会

## 出席

会員総数 94名 出席免除 20名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 84名  
欠席 14名 出席率 83.33%  
前々回（9/10）の修正出席率 100%

## 会長報告

- 9月27日、碧南クラブの創立50周年記念式典に、野村重彦パストガバナーと廣根幹事と私の3人で出席いたしました。こういった記念品（掛け時計）を頂戴しましたのでご披露いたします。
- 地区の会員増強委員会より、神谷光義会員と太田宗一郎会員に会員増強推薦者バッチが届きましたのでお渡ししたいと思います。
- ロータリー財団より廣根幹事にベネファクター（恒久基金）の認証状とピンが届きましたのでお渡しします。
- 第56回全国選抜・大学／実業団相撲刈谷大会の協賛のお礼と大会の報告が届いています。
- 9月11日に京和CCで開催されましたゴルフ例会は、寿杯と銘打ってそういった方々のお祝いを兼ねて盛大に行われました。結果は神野副幹事が趣旨をわきまえずに、グロス84、ネット68の素晴らしい成績で優勝されました。おめでとうございます。（成績・順位については9月10日号にて掲載済みです。）

## 幹事報告

- 次週10月6日はガバナー補佐訪問でございます。当日記念撮影も行いますので、多数の方々のご出席をよろしく願いいたします。また例会終了後にはクラブ協議会を行いますので、出席対象者の皆様は、年次計画書を必ずご持参下さいませよう、併せてよろしく願いいたします。
- 本日例会終了後、第4回理事会を事務局にて行いますので、関係の皆様にはご出席をお願いいたします。

## 世界ハートの日

塚本 幸夫



毎年9月の最終日曜日（今年は9月28日）は、World Heart Day（世界ハートの日）であり、これは“World Heart Federation”（世界心臓連合）が2000年に提唱した地球規模の心血管予防キャンペーンであります。

心血管病（心臓病や脳卒中）は全世界でもっとも重大な死因となっており、この2つの原因で毎年1,750万人の命が失われているそうです。「世界ハートの日」は、一般の人たちに健康的な食生活や運動、禁煙による心血管病の予防を奨励することが目的のキャンペーンです。

最近、アメリカのDana.E.Kingらは、45～64歳のアメリカ人15,708名を対象とし、健康的な生活習慣を実践した群と他の群との心血管イベントと死亡率を追跡調査しました。健康的な生活習慣の評価基準としては、①毎日5種類以上果実と野菜の摂取、②週2.5時間以上の運動、③BMI18.5～29.9kg/m<sup>2</sup>に推奨、④禁煙の4項目を取り上げ、その後10年間追跡調査しました。

その結果、心血管イベントのリスクを35%軽減し、死亡のリスクを40%軽減しました。この調査結果は45歳以上の人が健康的な生活習慣を取り入れることにより、心血管疾患発症と死亡のリスクが比較的短期間4年間でもかなり下げられることを示しています。言い換えれば、中高年になってからでも健康的な生活習慣に変更することは非常に価値があって、決して遅くないことを意味しているともいえます。しかし、一方では、途中から生活習慣の変更はなかなか難しいものだと実感できます。わが国でも「食事バランスガイド」「エクササイズガイド」「禁煙支援マニュアル」といったツールを用意し、対策に努めています。私は「アルコールの飲み過ぎ」も入れるべきと思っています。ちなみに昨夜は酒を抜きました。

## 第4回理事会

- I 会長挨拶 <会長>
- II 議題
- 1. 10・11月のプログラム（案）について  
<クラブ奉仕委員長>  
<プログラム委員長>
- 2. ガバナー公式訪問について <幹事>
- 3. ロータリー1億ドルのチャレンジへのご協力について  
<幹事>
- 4. 地区史「進化するロータリー愛知」申し込みについて  
<幹事>
- 5. 例会場のメールボックスについて <幹事>
- 6. その他

## 卓話 「新世代活動の理念と現実」

08～09年度・地区新世代委員会  
委員長 遠山 堯郎 様



新世代委員会、すなわち、新世代育成事業は、国際ロータリーの基本事業でありまして、地区の最重要委員会活動の一環として、ガバナーより、ご期待と、重責を負う委員会であります。

新世代委員会にご理解をいただきたいことは、一例として「R財団」「米山奨学」「700万人の子供の命を救ったポリオプラス」も全部が新世代関連活動です。同じく新世代之業の一環です。

2002年に開催された世界ワールドサッカーの日本、韓国の2ヶ国開催の成功に向けて活躍した当時の在日韓国大使館の責任者は、米山奨学生でした。現在、台北にある故宮博物館の館長も米山奨学生です。

ロータリーが言っている、水、飢餓、識字率の取組みについて、国が動き出しました。2008年4月21日に、時の総理の福田総理大臣がアフリカに対して活動を宣言しました。これも新世代活動です。

2008年度の地区新世代委員会のテーマは、1.「次世代の資源・新世代」 2.「関連委員会の原点回帰」です。その理由は、2006年齊藤PGは「クラブが崩壊している」2007年江崎PGは「クラブのマンネリ化が進んでいる」2008年片山DGは「クラブは落ち込んでいる」と述べられています。これが、新世代関連委員会にも波及していると申し上げたいと思います。その原因を作ったのが新世代委員会そのものであることも承知いたしています。

新世代委員会の中には、IA、RAとガバナー所管のRYLAの小委員会があります。この3つの委員会の管理、指導、助言が新世代委員会です。「次世代の資源」たる新世代の若者を、社会の有意義な資源に育成するための活動をしています。

さて、歴史の古いインターアクトクラブは15校15クラブ、高校に在学中の学生または、14歳～18歳までの若い人で構成されます。次に、ローターアクトクラブは9クラブあります。RAの標語は「奉仕を通じての親睦」で、18歳～30歳までの青年によって構成されます。地区の初代RA委員長は松坂屋の伊藤次郎衛門氏でした。最後にガバナー所管のRYLAセミナーですが、これからは、「ライラ」と言わないで、必ずRYLAと記憶してください。地区の関係書類もRYLAに変えました。

2008年度より、地区RYLA委員会とRYLAセミナーホストクラブのガイドラインを策定いたしました。2007年の手続要覧の100頁をみていただきますと良くわかりますが、参加資格は14歳～18歳、19歳～30歳の2つのグループです。

その理由は、多様なニーズと成長過程に対応できるようにするためですが、目的は簡単に言いますと、ロータリーは、青年期の若者に指導力を与える努力をしな

い！とすることです。新しい試みとして2006年度、斉藤PDG 年度より、RYLA セミナーの受講者で優秀な若者を2名、地区の浄財でRIの国際大会に派遣をしています。

新世代委員会の関連委員会を要約しますと、①インターアクトクラブの提唱は「若木に、ロータリーの健全育成の願いと、思いの、滋養を注ぐプログラム」であります。②ローターアクトクラブの提唱は「青年の樹に、ロータリーの奉仕の精神と、ロータリアンの持つ専門性、指導性を注ぐプログラム」であります。③RYLA セミナーは「大いなる砂漠の砂に、ロータリーの浄財と、心血の清流を注ぎ続け、何時か若木の芽が出ることを遠望する」崇高なプログラムであります。

結論を申しますと、新世代対象活動事業のIAC活動、RAC活動、RYLA活動、青少年交換活動、米山奨学、財団奨学は、ほとんどが、青少年達の健全育成事業であります。

これらの新世代育成事業は、その成果の現れは将来的で、事業結果も不透明であり、決して数値で図ることができない「夢」です。未確認の必要性が存在する事業であることは現実です。恩恵を受けた青少年たちが、果たして将来どう成長していくか予測は全くできません。

新世代関連委員会は、青少年が私たちの歳になったとき、家庭が、地域が、地区が、そして日本が、環境が、世界が、地球がおかしくなっていては困るのです。そうならないように新世代関連委員会はもちろん、地区内クラブの会員さんにご理解をいただきたいのです。

今日、例会にご参加の皆さん、これからの日本を背負って立つ新世代へ多くの支援をお願いします。